

needs 介護施設内における入居者へのケア品質を向上したい

■カメラ型 AI センサーを活用し介護施設内での転倒事故の通知、記録の実現

企業名 : 社会福祉法人史明会 特別養護老人ホーム Lino
 事業内容 : 介護福祉施設サービス事業 / 短期入所生活介護
 従業員数 : 85名 (2024年1月15日現在)
 所在地 : 奈良県奈良市窪之庄町 116-1

背景
 ・特別養護老人ホームを運営しているが、居室内での転倒事故の原因を特定することが難しかった。
 ・認知症の利用者などはナースコールが使用できないため、不要な訪室が多くなり職員の業務負担になっていた。

【お問合せ先】
 大門 弘尚 様
 TEL:0742-64-3500
 E-mail:lino@shimeikai.or.jp

IoT を活用した課題解決の内容

- ・カメラ型 AI センサーを活用して室内の人の動きを認識し、転倒事故発生時の前後の経緯を映像で記録。
- ・入居者の注意行動を認識すると職員のスマートフォンへ通知。

・検討・開発期間 : 1年
 ・開発者 : コニカミノルタ株式会社
 ・開発コスト : 約 800 万円※初期投資

課題

- ・入居者の転倒事故発生に関する原因を特定すること、家族に証拠をもとに説明すること。
- ・無駄な訪室を削減すること。



解決方法

- ・HitomeQ ケアサポートを導入
 一居室内での転倒を認識し、記録。
 一職員に通知される映像から居室の状況確認が可能になる。

特徴



■導入成果

- ・転倒事故を通知するカメラ型 AI センサーの導入により不要な訪室が導入前の5分の1になった。
- ・転倒時に記録される動画が転倒事故の原因特定につながり、再発防止策の検討に役立てることができるようになった。

■成功したポイント

- ・現場のスタッフとともに、介護 DX の展示会を回ったり、メーカーに問い合わせたりしながら新たなツールの導入を模索することで、導入の目的を現場全体に共有したことで、新しいツールへの抵抗感を無くしたため。

■今後の展開予定

- ・HitomeQ ケアサポートで得た情報を活用し、入居者の睡眠指標 (状況変化) を可視化し、分析することで入居者の健康管理にかかる質の向上をめざしていく。